

佳作

「ちよひなる」そと「めづがひ」

神奈川県横須賀市立大塚台小学校三年 及川 佳那

楽しい夏休みのはじまりに、悲しいできごとがありました。大切な家ぞくだった、大好きな犬のダイスケが十四才で死んでしまい、おわかれをしました。

一年ぐらい前から、だんだん足が弱ってきて、目も耳もわるくなって行って、大好きなおさんぽにも、とうとう行けなくなっていました。少しずつ少しずつ元気がなくなつて、でも家ぞくはダイスケにいつまでも元気でいてほしいとねがいながら、お世話をしていました。夏がきてあつくなる中、さいごはねたきりで、かわいそうだった。わたしのダイスケ。とうとう、海の日の朝、死んでしまいました。

わたしは、たくさん泣きました。そして、火そう場でほねにしてもらった後、車の中でつぼをだきしめた時、あたたかくて急に目のおくがすぐくジーンとして、なみだがこみあげてきて、ワァワァと今まで一番泣きました。

それから、夏休みのあいだ、毎日のようにお父さんやお母さんとダイスケの思い出を話しています。

春は、お庭の小さな花を頭やせ中にいっぱいくっつけて、風がふいたり、ブルッと体をゆすると花がふわふわとなつてきれいでした。お母さんに聞いたたら、ゆきやなぎと言う花でした。

あつさに弱いダイスケは、夏は木かげでべ口を出して、おなかを地べたにべた

ッとくっつけて、いつもねていました。お水をかけてあげると、ちょっとこわいけどきもちよさそうでした。

秋、お父さんがお庭で、サンマやしいたけをやいて、家ぞくで食べている時も、何もあげなくてもそばでうれしそうにすわっていました。

雪がたくさんふった冬があつて、白い雪がとってもにあつていて、うれしそう。だってシベリアンハスキーはソリをひく犬だもん。

でっかいからだで、毛がムクムクで、夏はあつくるしかたけど、冬はあつたかくてきもちがいいフワフワの毛でした。毛のはえかわりで、ムクムクの毛が庭におちると、ことりがすぐりのために、もらいにきました。やさしい茶色の目でいつも、わたしをみていてくれました。

わたしは泣いてばかりいたけど、たくさんさんの思い出をのこしてくれたダイスケにいいたいことは「ありがとう」です。